

く タ リ ジ ョ う あ と 久々利城跡

古代の景行天皇の伝承地である
くくりのみや
泳宮や、からくりを見ることができ
る久々利八幡神社大祭、美濃桃山陶
しのおりべ
(志野や織部など)を焼いた窯跡など、
古い歴史や文化がたくさん残る久々
利には、お城のあとも残っています。



戦国時代と呼ばれる今から500年ほど前、日本のあちこちで争いがおこりました。戦いに負けないよう、早く敵を見つけるため、高い山を利用してお城をつくりました。

ふだんは山のふもとの家でくらしていましたが、戦いの時にはお城へのぼって守りを固めました。



久々利城の想像図

く ク りじょう み の かねやまじょう
久々利城だけではなく、美濃金山城をは
せん ごく じ だい やまじろ
じめ、市内には戦国時代の山城がたくさん
ありました。

小さなお城でも、いろいろなしきけが
のこ
残っています。

やまじろ きけん
山城は危険がたくさんあります。
あとな ひと いっしょ
大人の人と一緒に行きましょう。

むかし く く り じょう 昔の久々利城

お城は、左の図のようなかんじだったと思われます。

お城の主は、守護大名土岐氏の一族で、室町将軍を守った
久々利氏です。

現在の可児市や多治見市の一^{はい}^ち^{いき}^し部といった、広い地域を支配した人です。

かにきょうどれきしがん
お城のふもとである、現在の可児郷土歴史館のあたりに
屋敷があったと考えられています。

可児市にのこる せん ごく じ だい しろあと 戦国時代の城跡



お城に行こう！

お城を守るために、いろいろなしきかげがあります。

曲輪（くるわ）

敵が攻めてきたとき、たくさんの人があ
城に上げられるよう、曲輪という平らな
たてもの場所をつくりました。建物がたちます。



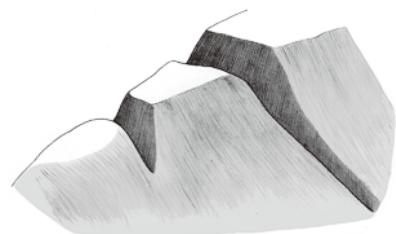
虎口（こぐち）

お城の入り口を虎口といいます。
攻められないように工夫しています。



堀切（ほりきり）

ほかの山から人が攻めてこないよ
うに山をけずりました。
これを堀切といいます。



堅堀（たてぼり）

敵に斜面を横移動させに
くくするためにつくられ
ました。

土橋（どばし）

堀を渡るためにつくられ
た土の橋です。

切岸（きりぎし）

曲輪に人がのぼってこないよう、
急なしゃめんをつくりました。
これを切岸といいます。

